

北岡理事長がフィリピンを訪問 平和定着の重要性を再確認

01



ミンダナオの道路起工式典でスピーチを行う北岡理事長



ジャーファーMILF副議長(前列右から二人目)と握手する北岡理事長

北岡伸一JICA理事長は、3月1日から4日にかけてフィリピンを訪問し、ベニグノ・アキノ3世大統領と会談したほか、ミンダナオ島で実施中のJICA事業の起工式に出席しました。

アキノ大統領は、ミンダナオ紛争影響地域に対するJICAの支援に謝辞を述べるとともに、同地域の包括的和平合意が次期政権でも継続され、早期に新自治政府の基礎となるバンサモロ基本法が成立することの重要性を強調。加えて、マニラ首都圏の「南北通勤鉄道事業」などに言及し、同国の持続的な成長を実現するためには、インフラ整備が不可欠だとの見解を示しました。

今回、北岡理事長はミンダナオ島北コタバト州アラマダ町を訪問し、無償資金協力「ミンダナオ紛争影響地域コミュニティ開発計画」に基づいて整備・改修が行われる道路の起工式に出席しました。

この事業は、農村と市場をつなぐ道路を整備することで、農産物の輸送効率の改善や、住民の生活改善を目指すものです。さらに、利便性の向上により、地域のムスリム、キリスト教徒、先住民の各コミュニティの集落間の往来が増え、宗教を超えた平和的共存に寄与する事業となることが期待されています。

北岡理事長は起工式で、これまでの和平プロセスを振り返るとともに、ミンダナオの平和定着のためにJICAが現地の人々に寄り添いながら支援を続けていくことを表明。バンサモロ開発庁のモハマド・ヤコブ事務局長は、「待ち望んでいた事業の起工式を迎えられて夢がかなった」と喜びを表し、和平プロセスの継続と経済社会開発の推進に意欲を示しました。

その後、北岡理事長は、モロ・イスラム解放戦線(MILF)のジャーファー第一副議長らとも会談し、今後の課題や支援の在り方について意見を交わしています。

この他、フィリピン沿岸警備隊を訪れ、過去に供与した通信システムや設備などを視察し、日本による長年の協力が同国の海上保安能力強化に貢献していることを再確認しました。

モロッコでインクルーシブな農業振興を支援

02



署名を取り交わす戸島モロッコ事務所長(左)とプーサイド経済・財政大臣(中央)

JICAは3月4日、モロッコ政府との間で「緑のモロッコ計画(農業セクター改革)支援プログラム」を対象に163億4700万円を限度とする円借款貸付契約に調印しました。

モロッコ経済において農業は重要なセクターですが、多くは雨水に頼る小規模農家で、干ばつ時には収穫量が通常の半分程度に落ち込むなど、生産高は不安定です。加えて、地方農村部は、同国の貧困人口の大半を抱えていることから、一層の雇用創出とインクルーシブ(包摂的)な農業振興が必要とされています。

今回調印したプログラムは、2020年を目標に同国政府が進める「緑のモロッコ計画」にて定められている2つの目標のうち、「小規模農家の経済システムへの参加促進」を政策改革支援型の円借款を通じて支援するものです。若年層、女性などの経済参画を促すインクルーシブな農業振興を図り、持続的な経済成長を目指します。これまでに構築された複数の協力スキームを活用し、JICAは引き続き同国の農業セクター改革を促進していきます。

フィジーのサイクロン被害に国際緊急援助

03



引き渡し式の様子(左から中郡臨時代理大使、タンギザキンバウ西部行政区長官、澤田所長)

2月20日にフィジーに上陸した大型サイクロン「ウインストン」の被害に対してJICAが供与した緊急援助物資が同国に到着しました。

緊急援助物資の第一便は、2月26日に同国西部のナンディ空港に到着。翌27日午前11時より、同空港で物資引き渡し式が行われました。引き渡し式には、フィジー側からマナサ・タンギザキンバウ西部行政区長官が、日本側からは、中郡錦蔵(なかぐん きんざう)在任のJICAフィジー事務所長らが出席しています。

中郡臨時代理大使は引き渡し式で、被災者に対するお見舞いの言葉とともに、一刻も早く人々が安定した生活を取り戻せるよう願う旨を述べました。一方、タンギザキンバウ西部行政区長官は、迅速な支援に感謝し、物資を計画的に配布していくことを強調しました。

今回供与した援助物資は、同国の国家災害管理局と災害対策本部を通じて、被災者に届けられます。